行動計量学会報

日本行動計量学会事務局
〒106-8569
東京都港区南麻布4-6-7
統計数理研究所 村上研究室
Tel & Fax 03-5421-8766

第28回大会を終えて

繁桝 算男

今年度は久しぶりに日本人のノーベル賞受賞者が出た。日本人として慶賀すべき事であるし、東工大出身の白川博士は、身近にいる大学の多くの研究者に似ていらっしゃるようでこの点もうれしい。しかし、通算すると、日本人の受賞者の数は少ない。ご存知のように、ノーベル賞受賞者は、地域的には、フランス、イギリス、ドイツの時代を過ぎ、現代は、アメリカ合衆国の受賞者の数が他を圧している。しかも、アメリカの中でも、他の国でも、その国の内部で、受賞者の分布はある特定の研究所や大学に偏在している。

この国や施設の偏在は、知的能力、特に、創造性の偏在を意味しているのであろうか。そのように即断はできない。むしろ、創造的所産を助長するような雰囲気が偏在している可能性の方が高いであろう。創造性を助長するのは、独立な研究者間の率直な意見交換、新しい考え方を面白がる雰囲気、それにさらに具体的に、アイデアを実現するために利用できるリソースの充実などである。日本人には創造性がないという前に、日本の研究機関において改善すべき点は多い。

前置きが長くなったが、この小文は、日本行動計量学会第28回大会の報告である。大会の目的の第1は、創造的研究をもたらす機会を作ることであると思う。現在では、インターネットが発展し、ますます、文献を検索し、情報を収集する事が容易になった。わざわざ、大会に参加する必要性を感じない会員もいるかもしれない。しかし、研究のモティベーションやアイデアは生身の人間の付き合いから生じるように思われる。難解に思われる論文も、そのアイデアを考えた人から直接説明されるとわかりやすいことがある。また、同じ領域の研究者によって、完膚なきまでに批判されたようでいて、しばらく後で考えていると、これまでと異なる新鮮な考え方が生まれるかもしれない。あるいは、異なる領域の研究で、自分の研究と関連性がなく、その研究を聞いたのが時間の無駄のように思った内容が新しい方法論を生むかもしれない。行動計量学において、ノーベル賞はなくても、創造的な研究が望まれる事はもちろんである。今回の大会でもこれからの大会でも、新しいことを考えるように脳を刺激する機会は多く与えられると思う。研究発表に対する批判、講演者に対する質問、懇親会での無駄話など、すべて、創造的研究のきっかけになり得るものであろう。

本大会では、いくつかの学会と協力し、方法論的には先達であると自負する行動計量学会とのジョイントセッションを企画した。参加者は、397名、アルバイター23名、その他シンポジウムなどの招待者3名である。我々の意図がどの程度実現したかは、参加した皆様の判断次第であるが、我々としては、「楽しい学会でした」と言い残して帰られた方が何人かいらっしゃって、それが何よりもありがたい言葉であった。

この大会の準備のために瑣末な種々の雑用を担ってくださった実行委員の皆様、生命環境科学系認知行動グループの学生達に感謝いたします。とりわけ、多くの時間を使っていただいた事務局の丹野先生、望月さん、また、大森さんに感謝いたします。

和文誌編集委員長ご挨拶

編集委員長をお引き受けして

林 文

年度の途中から編集委員長を引き継ぐことになりました。これまでご尽力下さっていた久保武士先生が、新しい病院の院長にご就任されてご多忙を極めておられ、後をお引き受けしました。立派なお仕事をなされている久保先生にひきかえ、全く無力であることは皆様ご承知のとおりです。編集委員諸兄のお力によって、和文誌「行動計量学」の役割を十分に果たして行けますように、編集事務局として何とか務めていきたいと思っております。どうかよろしくお願いいたします。

平成12年度第3回理事会議事録

日時：平成12年7月17日（月）6:00pm～8:00pm
場所：統計数理研究所
出席者：岩坪 秀一，江川 清，岡太 彬訓，狩野 裕，上笹 恒，菊地 賢一，齋藤 堯幸，繁桝 算男，杉山 明子，林 文，村上 征勝，柳井 晴夫，柳原 良造，吉野 諒三

1．平成11年度決算案及び平成12年度予算案について

事務局より平成11年度決算案、及び平成12年度予算案について説明があり、検討した結果、平成12年度学会費前受金を明確に表記することになり、決算案、予算案の収入支出の項目を一部変更することとなった。

2．第28回大会について

繁桝大会実行委員長より以下の報告があった。

・一般発表64件
・特別セッションは18
・大会のポスターを作成する。イブニングセッションも考慮中である。

また、この報告に関連して、特別セッションが出来るだけパラレルにならないよう工夫して欲しいという要望が出された。

3．第29回大会について

岩坪担当理事より甲子園大学と交渉中であり、前向きに検討するとの返事があったとの報告があった。また、大会開催の時期は9月となっているが、この時期が適切かどうかという疑問が出されたので、開催校との交渉の際に考慮してもらうこととなった。

4．学会賞について

村上学会賞担当理事より学会賞の推薦依頼が遅れ、理事会までに選考が間に合わなかったので、選考終了後、E-mail等で各理事に承認をお願いしたい旨の依頼があり了承された。

5．名誉会員の推薦について

これまでの「会則検討委員会」による検討事項、理事会の了解事項、他学会の例（詳細な要件で厳密に規定している）などを参考にしながら、今後の選出方法を審議した。その結果、「会則に従って理事会で検討し、総会に諮る」という従来の方法を、当分の間続けることになった。

6．各種委員会報告

・狩野欧文誌編集委員長より編集状況について報告があった。編集委員の英語名の提案があり、了承された。非会員の外国人に対し、投稿論文をお願いするDMをうち、今年度末までに投稿された論文にはページチャージを課さないことにしたいとの提案があり了承された。また外国人非会員の人が編集委員になれるように会則を変更してもらいたい旨の提案があり了承され、次回の総会で提案することとなった。
・久保和文誌編集委員長に代り、事務局より和文誌の編集状況の報告があった。
・岡太前運営委員長より1999年度の講演会などの会計報告があった。
・山岡運営委員長に代り、菊地理事より運営委員会の委員名、及び平成11年度小グループ研究会の決算報告等について報告があった。

7．その他

・菊地広報担当理事より会報担当者の追加、学会Webページ・ワーキンググループについて報告があった。また学会Webページの目次に「関

連学会からのお知らせ」という項目を加えたいとの提案があり了承された。

・岡太組織検討委員長より、役員選出に関する細則の変更（案）が提案され、一部修正の後了承された。この変更案は次回総会に提案することとなった。

日本学術会議報告

吉村 功

２０００年７月から３年間の任期で、日本学術会議の第１８期がスタートしました。今期も前期に引き続き、第４部の統計学の分野から私が選ばれ、統計学研究連絡委員会を担当することになりました。私としては、関連学会の会員の皆様に、なるべく迅速に立場上で得られる情報をお知らせしたいと思っています。なお、第３部の経済統計学の分野からは松田芳郎氏が会員に選ばれています。

新しい期の第１回会合は、７月２６日～２８日にかけて開かれました。といっても、総理大臣からの任命の儀式と、会長等の役員の選出だけで、実質的な動きはまだです。会長には、前期から引き続いて吉川弘之氏が選ばれました。単記無記名選挙です。

その後、副会長等の選挙が、テレビで見るような歩みで繰り返し行われたものですから、けっこう時間がありました。その合間に会員全体210人についての統計を取ったところ、次のような結果でした。手作業ですから、多少の誤差はあるかもしれませんが、おおよその傾向は出ていると思います。

１）生年分布：1925年まで（以前）＝1.4%、1925～30年まで＝11.3%、1930～1935年まで＝33.3%、1935～1940年まで＝34.3%、1940～1945年まで＝16.7%、1945～1950年まで＝2.9%、平均、中央値とも約64歳。

２）前期からの継続会員：44%、ただし第４部（理学）に限ると61%で、なぜ重任が多いかは分かりません。（会員は３期を超えられません。）

３）性別分布：男性＝96.7%、女性＝3.3%（７人）

４）出身大学：東大＝45%、京大＝13%

この結果から、皆さんが何をお考えになるかは、学術会議とはどのような存在なのか、という認識によります。いろいろ論議をして、次回のためにどんな人を選ぶようにした方がよいか、方向性を考えておいて下さい。学術会議全体としては、とにかく女性会員を10%に増やすというのが努力目標になります。ついでに言いますと、国際統計協会（ISI = International Statistical Institute）の会員における女性の比率が、日本が極端に低いから、女性の会員を推薦するようにしてくれ、という注文が国際統計協会の理事会からわざわざ手紙で来ています。いわば黒船が圧力をかけているようなものですが、開国は歴史の必然だったように、これに対応することが必要なことではないでしょうか。

学術会議については、二つの役割が重要だと私は考えています。一つは、関連学会・関連研究分野間の協調をはかること、もう一つは、政府の学術政策に学者・研究者の意向を反映させることです。

私自身は、統計学の分野から選ばれていますので、前者については、統計学関連のことを担当します。後者については、理数教育で問題になっている、学力低下への歯止めをどうすればかけられるかを、理科と数学の関係会員と共にワーキンググループを作って研究していきたいと考えています。

私が担当している統計学研究連絡委員会は、１０月にスタートします。委員としては、後に示す方を候補として申請しています。任命があり次第、会合を開きますが、統計学の外に統計学の研究課題があり、研究者の関与が求められているか、に焦点を合わせていこうと考えています。

なお、昨年夏に行ったシンポジュームについては、報告を論文形式で公刊することを「統計学会誌」に依頼中です。遅れていて申し訳ありません。

研連委員候補：学術会議第１部＝佐伯胖、第２部＝堀部政男、第３部＝松田芳郎、第４部＝吉村功、第５部＝久米均、第６部＝鈴木和夫、第７部＝角田文男、日本統計学会＝竹村彰通、渡辺美智子、日本行動計量学会＝馬場康維、応用統計学会＝柳川堯、日本計算機統計学会＝垂水共之、計量生物学会＝大瀧慈、日本数学会統計数学分科会＝景山三平、以上１４名です。

学会賞を受賞して

功績賞

印東 太郎

六年前に名誉会員に推薦頂いた時にも驚きましたが、今回受賞の通知に接した時には更に驚きました。その時“会報63号”にも書いたように、私が行動計量学会に参加したのは1976年3月の第13回シンポジュウムが最後ですから、よく忘れずにいて下さったものと思います。学会に参画したのは創立以来で、Behaviormetrikaの刊行には1974年のNo.1から1978年のNo.5まで責任者となっておりました。当時は年に一冊で、正直言ってこの研究誌は本当に持続出来るだろうかと心許なく、五十歳を過ぎて初めて子を設けた小林一茶の句“這え笑へ二つなるぞ今朝からは”という心境だったのを覚えております。1978年に当大学の訪問教授（当時）となったので、松原望さんに後を継いで頂き、今では27巻で立派な成人に成長しました。十年前カリフォルニア大学が財政難の時代、図書館がBehaviormetrikaの講読を打ち切りかけたのに抗議したのも思い出で、ずらりと並ぶ近著誌の棚の中央あたりに本誌のベージュ色の表紙がひときわ目立っております。

昔は知能因子の解析に加え、日本科学技術連盟や電通のモチベーション研究所に関係していたので、購買行動や作業エラーなど行動面も多少手がけましたが、本格的にこちらに移って以来(1980)、私は研究の焦点を目に見えている空間の幾何学的構造、700万に及ぶ色彩の間に成立する類似・相違の印象形成の過程、stochastic processによる記憶の解明など、認知過程の数理解析に限定致しました。幸い名誉教授になっても(1993)オフィスはそのままですので、手をつけれずにいたデータの解析に日を送っております。いずれの分野でもまだ少し仕上げたい事が残っており、この栄誉を契機にもうひとふんばりすることに致します。私にはPsychometric Societyは方法論に、Society for Mathematical Psychologyは純数理面に少し偏り過ぎているように見えます。本学会が行動の実質研究にも力を入れ、医療を始め現場からも多くの参加を得ているのは、まことに当を得たものと思っています。受賞のお礼申し上げると共に、本学会の今後一層の発展をお祈り致します。

優秀賞を受賞して

大分医科大学医学部情報科学　江島 伸興

２０００年度の日本行動計量学会大会の２週間ほど前に、受賞委員長（統計数理研究所教授　村上征勝先生）より優秀賞受賞予定のご連絡を頂きました。全く予期せぬことでございまして、驚きと喜びで感無量でした。大変名誉なことで、本学会会員の皆様及び本賞にご推薦頂きました先生方に厚く御礼申し上げます。

本学会会員になりまして早くも１０余年が過ぎました。この期間を振り返るとき、私の研究テーマを三群に大別できると思っています。第一群は潜在構造分析法に関する研究で、特にその応用モデルによる分析法を研究致しました。主に初期の研究が多く、欧文誌Behaviormetrikaへは５編投稿致しました。この初期の研究で対象とする現象とその数理的説明に興味を持ち、行動計量学的研究の重要性を学びました。第二群はカテゴリ変量の連関の分析及びパス分析の研究で、Behaviormetrikaへは二編投稿致しました。現在も研究継続中ですが、連関モデルの性質とそのモデルによる分析法の研究及びカテゴリ変量の効果分析に興味を持ちました。連続変量分析の直接的な模倣では出来ない難しさを痛感していますが、モデルやデータ分析に関する方法論を考える余地は十分残っていると考えています。第三群は工学や医学等の研究者との学際的研究であります。最初は大学内で種々の質問を受けて、小生の力量不足による答えを返すのみでしたが、実際の現象考察や実データ解析の重要性を認識し、積極的に共同研究にも取り組むようになりました。この研究は一見して研究時間の浪費のようですが、この蓄積は行動計量学を行う上での糧であり、研究論文が出来、さらに活きた講義の材料を提供してくれました。共同研究は専門の違う研究者の考えを勉強するための絶好の機会と認識しています。

小生自身、道に迷いながら、数理、方法論および実データ解析による検証的研究を行って参りました。行動計量学との出会いは数学出身の私に柔軟な発想と研究の幅の広がりを与えてく

れました。今後も前向きに行動計量学の研究に取り組む所存です。会員の皆様の尚一層のご教示を賜れば幸甚です。最後ではございますが、今日まで研究上及び人間としての模範を示して頂いた九州大学名誉教授浅野長一郎先生並びに諸先輩及び諸学兄に厚く御礼申し上げます。

奨励賞を受賞して

統計数理研究所　前田 忠彦

このたびは奨励賞を頂き、大変光栄に思っております。私が受賞してよいものかしばらくの間、戸惑いを感じましたが、愛着を感じている学会から誉めて頂けることはただ嬉しく、推薦して下さった先輩方には、厚く御礼申し上げます。

自分の専門は心理学的測定法と社会調査法の両方であると思っております（最近では後者の仕事に力を注いでおりますが）。その意味で肥田野先生、水野先生のお名前を冠した賞を頂いたことは名誉なことで、自分にとって良い節目にせねばと考えているところです。

本学会誌には共著論文くらいしか業績のない私ですが、せめて学会発表だけはと思い1992年くらいからずっと続けて参りました。それだけでいけないのは当然で、今回の授賞はこの先の期待料をこめてのことであると承知します。精進して参りたいと思います。ありがとうございました。

奨励賞を受賞して

大学入試センター　菊地 賢一

私が、行動計量学と本格的に向き合うこととなったのは、現在の職場である大学入試センターに移ってからのことでした。勤務をはじめた当初、短い期間でしたが、水野欽司先生と一緒にお仕事をさせて頂きました。今年度より、奨励賞のニックネームが肥田野・水野賞となりましたが、水野先生のお名前が加わった初年度に、この賞を頂けたことを、非常にうれしく思っております。

奨励という言葉は、もっとがんばれ、という意味だと思いますので、今後は、研究ならびに学会活動に、より一層励んでいきたいと思っております。本当にありがとうございました。

第4回春の合宿セミナー

恒例となりました春の合宿セミナーを今年度も開催します。今回はデータ解析に関して初心者を対象として、分析方法を講義します。また初の試みとしてナイトセッションを用意しました。会員・非会員を問わず参加可能です。ふるってご参加下さい。日程・場所は以下を予定しております。

日程: 平成13年3月9日(金)～10日(土)
場所: オリンピック記念青少年総合センター
(東京都渋谷区代々木神園町3-1)
宿泊については当所で可能です。

詳しい内容は未定ですが、下記の様なセッションを予定しています。なおプログラム・参加費・申し込み方法など詳細につきましては決まり次第行動計量学会のホームページまたは、http://www.twcu.ac.jp/~ehirose/spring.html で紹介いたします。

多変量解析の理論と実践

因子分析、共分散構造解析など多変量解析のいくつかの手法について分かり易く解説する。

医学・看護学データの解析

医学や看護学領域で扱われるデータについて実際例を用いて解説する。

両コースとも初心者向けの内容です。

ナイトセッション(9日夜)
我が国における調査の現状と問題点

選挙調査を初めとして我が国で行われている様々な調査について解説する。さらにグラスを片手にしたディスカッションの時間も用意する予定です。積極的な発言を期待します。

問い合わせ先

西川　浩昭
nisikawa@sakura.cc.tsukuba.ac.jp
廣瀬　英子
eikohirose@mbk.sphere.ne.jp

小グループ研究会募集

日本行動計量学会では、研究活動の活性化をはかるため、毎年数件の小グループ研究会（ただし、行動計量学会の会員がメンバーの半数以上を占めること）に対して活動経費の助成（1グループ5万円）を行っています。平成13年度の小グループ研究会の募集を下記の要領で行います。本年度からの新規、昨年度からの継続、どちらでも結構です。なお採否の審査結果は、4月初旬にお知らせする予定です。

提出書類：研究会名、代表者、参加予定人数（会員、非会員別）、研究会の趣旨（400字程度）、活動予定を記載したもの（既定の様式はありませんがA4版用紙を使用して下さい）。
応募期限：平成13年1月20日（土）必着
郵送先：〒173-8605　東京都板橋区加賀2-11-1
帝京大学医学部衛生学公衆衛生学教室
日本行動計量学会運営委員会委員長
山岡和枝

採択された場合には、
★できるだけ早期に
(1)小グループ研究会のホームページの作成
★終了後（平成14年3月31日まで）
(2)決算報告書（助成金は活動に関連した事項であれば何に使っていただいてもよいが、領収書を添付すること）
(3)会報に掲載する活動の記録（800～900字）
(4)3,000字～4,000字の研究成果の報告書
(5)「行動計量学」に掲載する研究内容の概略（24字×60行程度）
★終了後1年以内（平成15年度）
(6)行動計量学会大会での演題発表
が義務づけられます。

お問い合わせは、山岡(Tel: 03-3964-1211内線2178、またはe-mail: kazue@med.teikyo-u.ac.jp)までお願いします。

PDFファイルを公開します・査読結果は3ヶ月で届きます

Behaviormetrika 編集委員会

近年、多くの分野において国際化が求められています。その中でも学術雑誌の国際的評価は避けられない情勢です。つい10年程前までは学会誌は学会員へのサービスであるべしというルールがあったようですが、最近は、海外からの投稿数・論文数、外国人の編集委員数・査読者数、そして、雑誌のインパクトファクターが問われています。Behaviormetrikaは学術振興会の補助を受けていますが、申請書にはこれらの情報を記入する必要があります。

Behaviormetrikaの編集におきましては、繁桝前委員長の時代からSpecial Issueを発行するなど、国際的な認知を得られるよう努力をしてまいりました。今回、なおいっそうの国際化を図るため、新刊論文のPDFファイルを学会のホームページからダウンロードできるようにしました。雑誌発行から1年間の期間限定です。

ホームページの情報検索に引っかかりやすくするため、キーワードに加えて論文のアブストラクトも掲載しています。学術雑誌の国際的認知を高めて、引用件数を増加させるには、「知ってもらうこと」「読んでもらうこと」が重要です。PDFファイルの公開はそのための極めて有効な方法と考えています。また、invited paperやreview paperの掲載、Special Issueの編纂も行います。

学術雑誌の価値を高めるにはインパクトのある論文を掲載することが第一義的であることは論を待ちません。学会員のみなさまからのすばらしい論文の投稿をお待ちしています。一回目の査読結果は3ヶ月以内に報告します。

なお、Behaviormetrikaのホームページの URLは以下のとおりです：
`http://wwwsoc.nacsis.ac.jp/bsj/behaviormetrika_index.html`

お問合せ等は、狩野裕（編集委員長 kano@hus.osaka-u.ac.jp）までお願いします。

和文誌編集委員会からのお願い

和文誌は現在第27巻2号を来年始めに発行の予定で準備中ですが、このところ多少発行が遅れ気味になっています。これを解消していくためにも、皆様から意欲的な論文や研究ノートの投稿をお寄せいただくことを期待します。また、特集や展望についてのご提案や、和文誌そのものに対するご意見やご要望をお寄せ下さい。メール、ファックスなど何でも結構です。

運営委員会からのお知らせ

本年度の小グループ研究会援助で応募されていました「家庭環境と職行動の計量分析」研究会（代表　岩澤美帆）が、今期、活動を行うことが困難になられたという理由で助成を辞退されました。残念ですが、またの機会に是非、ご応募下さい。

組織検討委員会からのお知らせ

役員選出に関する細則の6と12が以下のように改訂されました。

6．各種委員は，関係する委員会等が，会員の中から選出し，理事会の承認を経て，委嘱する。ただし，関係する委員会等に特別の事情がある場合には，必要に応じて非会員から選出し，理事会の承認を経て，委嘱することができる。

12．理事および監事の当選人は，原則として，その就任を辞退できない。やむをえない事情で就任できない場合には，理事は欠員のままとし，監事は次点者を繰り上げて当選人とする。また，任期中に欠員が生じた場合には，理事は欠員のままとし，監事は次点者を繰り上げて補充する。

第29回大会について

大会担当理事 岩坪 秀一

10月8日の第28回大会総会において、来年の大会開催校となった甲子園大学の木下冨雄学長から以下の内容の挨拶があった。

大学の場所は兵庫県宝塚市、開催時期は9月上旬予定。今のところは、データ解析法のユーザーとメーカーとの本格的質疑応答といったことを考えているが、他のテーマについても追々考えていきたい。会員諸氏のご協力をおおいに期待する。

なお木下学長は、宝塚市は宝塚歌劇の本拠地でタカラジェンヌにも会える魅力的な地であることも付け加えられた。

関連学会等カレンダー

＜学会大会等＞

☆ 日本分類学会第17回研究報告会

会　期：2000年12月9日（土）
会　場：統計数理研究所講堂
（東京都港区南麻布4-6-7）
照会先：日本分類学会事務局
〒106-8569　港区南麻布4-6-7
統計数理研究所気付，Fax: 03-5421-8796
http://wwwsoc.nacsis.ac.jp/jcs/

＜シンポジウム等＞

☆ 第10回日韓統計会議(JKCS-2000)

会　期：2000年12月4日(月)，5日(火)
会　場：B-Con Plaza(大分県別府市)
テーマ：Statistical Prediction and Computing
照会先：大会事務局
〒700-8530 岡山市津島中 3 − 1 − 1
岡山大学環境理工学部 栗原 考次
Fax:086-251-8552
E-mail:jkcs2000@stat.ems.okayama-u.ac.jp
http://www.stat.ems.okayama-u.ac.jp/jkcs2000/

☆ 日本行動計量学会・日本分類学会共催シンポジウム

テーマ:テキスト型データ等の取得から活用まで
会　期：2000年12月8日(金) 13:00 ～ 17:30
会　場：統計数理研究所講堂
（東京都港区南麻布4-6-7）
照会先：多摩大学経営情報学部　今泉　忠
〒206-0022 多摩市聖ヶ丘4-1-1
Tel:042-337-7157, Fax:042-337-7103
E-mail: imaizumi@oak.timis.ac.jp
または　統計数理研究所　前田　忠彦
〒106-8569 港区南麻布4-6-7
Tel:03-5421-8734, Fax:03-5421-8796
http://wwwsoc.nacsis.ac.jp/bsj/
（詳細は別紙案内を参照）

☆ 2nd International Symposium on Frontiers of Time Series Modeling (時系列モデリングの最前線)
Nonparametric Approach to Knowledge Discovery

会　期：2000年12月14日(木)～ 12月17日(日)
会　場：奈良県新公会堂
主　催：統計数理研究所
照会先：シンポジウム実行委員長　樋口知之
組織委員長　瀧澤由美
〒106-8569 港区南麻布4-6-7
統計数理研究所
http://www.ism.ac.jp/~higuchi/sympo2/
Fax: 03-5421-8749
E-mail: higuchi@ism.ac.jp,takizawa@ism.ac.jp

☆ 日本感性工学会・あいまいと感性研究部会・感性商品研究部会合同シンポジウム

会　期：2000年12月15日(金) 10:00 ～ 17:00
会　場：工学院大学新宿キャンパス
（東京都新宿区西新宿1-24-2）
照会先：〒163-8677 新宿区西新宿1-24-2 工学院大学情報工学科　椎塚　久雄
Tel: 03-3340-2971 Fax: 03-3348-3486
E-mail: shiizuka@cc.kogakuin.ac.jp
〒525-8577 草津市野路東1-1-1
立命館大学経営学部　長沢 伸也
Tel: 077-561-4632 Fax: 077-561-3964
E-mail: snt01497@ba.ritsumei.ac.jp
http://wwwsoc.nacsis.ac.jp/jske/main.htm

公募情報

時期的に多くの公募が出ています。例えば、NACSIS-CIS（下記参照）のキーワード検索でヒットした公募の件数(11月上旬の数字)は、「行動」で5件、「計量」で3件、「測定」または「評価」で27件、「統計」で12件、「社会学」で14件、「社会調査」で1件、「心理学」で17件、「マーケティング」で2件、「認知」で4件、「看護学」で21件、「公衆衛生」で5件、などとなりました。

以下の公募は、応募期限の早い順に並んでいます。応募資格等、研究者等の公募情報の詳細については、公募元にご確認下さい。文部省情報学研究所（旧学術情報センター）の「研究者公募情報提供事業」(NACSIS-CIS)の下記WEBページも参照して下さい。

http://cis.nacsis.ac.jp/

ただし、以下には上記ページに含まれていない公募情報も掲載されている場合があります。

☆ 関東学院大学文学部

採用人員：講師または助教授1名
[教職課程専任教員]
専門分野：教育心理学
採用予定：2002年4月1日
応募期限：2000年12月6日
照会先：関東学院大学文学部庶務課
〒236-8502　横浜市金沢区釜利谷南3-22-1
Tel:045-786-7179, Fax:045-786-6612

☆ 札幌学院大学経済学部

募集科目：経済統計学
採用人員：教授，助教授または講師1名
採用予定：2001年4月1日
応募期限：2000年12月11日
照会先：札幌学院大学学務課
〒069-8555 北海道江別市文京台11番地
Tel:011-386-8111　内線3213
Fax:011-386-8113
http://www.sgu.ac.jp/

☆ 富山大学経済学部
大講座名：政策科学
採用人員：教授，助教授または講師1名
担当授業科目：(1)専門授業科目　統計学，応用統計学または計量経済学，(2)その他の授業科目　教養教育科目，入門科目，演習など
採用予定：2001年4月1日（やむを得ない場合には同年10月1日までのできるだけ早い日）
応募期限：2000年12月11日
照会先：富山大学経済学部長
Fax:076-445-6419，または
e-mail：ecowww@www.toyama-u.ac.jpによる照会のみ可

☆ 東京家政大学文学部
学科：心理教育学科
採用人員：助教授または教授1名
専門分野：社会心理学
採用予定：2001年4月1日
応募期限：2000年12月15日
照会先：東京家政大学狭山校舎学務部学務課（心理教育担当　中村）Tel:042-952-1622

☆ 東京都立大学人文学部
学科：社会学科
採用人員：助教授または専任講師1名
社会学分野において実証研究の実績を有する者
採用予定：2002年4月1日
(2001年ではないので注意)
応募期限：2000年12月15日
照会先：社会学科　高橋和宏
Tel: 0426-77-1111(内線 1130), 0426-77-2054(直通)

☆ 富山大学教育学部
所属講座：学校教育（学校心理学）
採用人員：助教授または講師1名
専攻分野：発達心理学
採用予定：2001年4月1日
応募期限：2000年12月18日
照会先：学校教育講座　山本都久
Tel: 075-445-6363,
不在の場合は教育学部総務係
Tel: 075-445-6257

☆ 統計数理研究所
所属：調査実験解析研究系多次元解析研究部門
採用人員：助手1名
研究分野等：実質科学分野における様々な種類の統計データの多変量・多次元解析法に関する研究（単に既存の解析手法をデータに適用するのでなく，調査や実験によるデータ収集の段階から実質科学分野に深く関与し，適切な解析手法を新たに研究・開発することを目指す方。）
採用予定：2001年4月1日以降の早い時期
応募期限：2000年12月20日
照会先：統計数理研究所　管理部庶務課人事係
Tel: 03-5421-8707, Fax: 03-3443-3552
http://www.ism.ac.jp/

☆ 統計数理研究所
所属：領域統計研究系自然科学領域研究部門
採用人員：助教授あるいは助手1名
研究分野等：生物統計学（広く臨床試験・毒性・疫学・環境等の分野で，健康への影響に関する計量的方法を開発する将来性のある研究者。特に，統計学について十分な知識をもつと共に，研究の最前線と社会のニーズを見据える感覚を持つ方。）
採用予定：2001年4月1日以降の早い時期
応募期限：2000年12月20日
照会先：統計数理研究所　管理部庶務課人事係
Tel: 03-5421-8707, Fax: 03-3443-3552
http://www.ism.ac.jp/

☆ 岐阜経済大学経営学部
採用人員：教授，助教授または講師1名
担当科目：「マーケティング論」　ただし，マーチャンダイジング論，市場調査，広告論のいずれの科目も担当できる人
採用予定：2001年4月1日
応募期限：2001年1月6日
照会先：岐阜経済大学総務課
〒503-8550 大垣市北方町5-50
Tel: 0584-77-3511(代表)

日本行動計量学会Webページ
http://wwwsoc.nacsis.ac.jp/bsj/index.html

第4回春の合宿セミナーWebページ
http://www.twcu.ac.jp/~ehirose/spring.html

会員の著書等

☆ 朝野熙彦「入門多変量解析の実際 第2版」講談社, 2000年.
☆ 朝野熙彦・木島正明(編)「金融マーケティング」(シリーズ現代金融工学<9>) 朝倉書店, 2000年.
☆ 岩崎　学「統計的データ解析のレシピ」日本評論社, 2000年.
☆ 盛山和夫・原　純輔・今田高俊・海野道郎・高坂健次・近藤博之・白倉幸男(編) シリーズ「日本の階層システム」全6巻 東京大学出版会, 2000年.
1.『近代化と社会階層』(原　純輔編)
2.『公平感と政治意識』(海野道郎編)
3.『戦後日本の教育社会』(近藤博之編)
4.『ジェンダー・市場・家族』(盛山和夫編)
5.『社会階層のポストモダン』(今田高俊編)
6.『階層社会から新しい市民社会へ』(高坂健次編)
☆ 松原　望「統計の考え方〔改訂版〕」(放送大学教材) 放送大学教育振興会(日本放送出版協会), 2000年.

学会誌論文投稿先

学会で発表された研究などを、できるだけ論文として投稿してください。お待ちしております。

和文誌「行動計量学」

〒226-0015 横浜市緑区三保町32
東洋英和女学院大学　人間科学部
林　文
TEL: 045-922-5511（代表）
　　045-922-7264（研究室直通）
FAX: 045-922-6642（共用）
e-mail: fumih@toyoeiwa.ac.jp

欧文誌「Behaviormetrika」

〒565-0871 吹田市山田丘1-2
大阪大学人間科学部
日本行動計量学会欧文誌編集委員長
狩野　裕

入会手続き

学会では新入会員を広く募っています。詳しくは、下記までお問い合わせください。

〒113-8622 東京都文京区本駒込5-16-9
学会センター C-21
(財) 日本学会事務センター内
日本行動計量学会係
TEL：03-5814-5810
FAX：03-5814-5825

日本行動計量学会会員数

(2000年10月19日現在)

正会員	997名
準会員	65名
名誉会員	6名
賛助会員	17社

編集後記

10月の大会からあっという間に一ヶ月以上がたち、この会報の編集作業をしておりますが、大会終了後の作業がお忙しい中、繁桝先生には巻頭言をご執筆いただきました。ご協力ありがとうございました。

ところで、今年度も、もはや恒例となりました春の合宿セミナーを企画しております。特に、若手の研究者の皆様、会員、非会員を問わず、ぜひご参加いただきたいと思います。

また、今号を作成するにあたり、会員の方々から、いろいろな情報をいただきました。会員の方が出版された著書や、関連学会の大会、シンポジウムの案内など、会報に掲載すべき記事がございましたら、ぜひとも情報をお寄せください。

会報原稿送付先

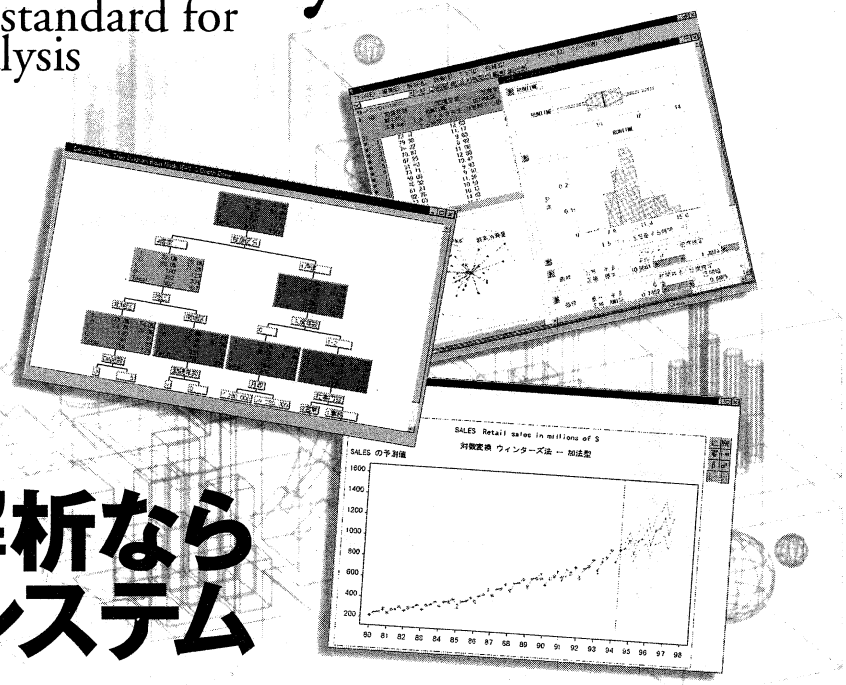
皆様からの情報をお待ちしております。
〒153-8501 東京都目黒区駒場2-19-23
大学入試センター研究開発部
菊地賢一 kikuchi@rd.dnc.ac.jp
TEL：03-5478-1273
FAX：03-5478-1297

題字：林知己夫
会報作成担当：菊地賢一・前田忠彦・西山悦子

The SAS System

The de facto standard for statistical analysis

sas e-Intelligence



統計解析なら SASシステム

高度な統計機能で高い評価と信頼性を持つSASシステム。医薬品開発、品質管理、マーケティング分析など、
あらゆる分野で世界中の統計ユーザーに利用されており、初等統計から複雑な統計手法や行列演算までの最新の統計手法が、
GUI環境やプログラミング環境を通して実行可能。SASシステムは、MVA（Multi-Vendor Architecture）のコンセプトにより、
メインフレームからミニコン、ワークステーション、パソコンまでをカバー。もちろん、
主要データベースへのアクセスもサポートしています。また、SASシステムはデータウェアハウスの構築もサポート。
データアクセスから加工、解析、グラフ化、レポーティングまでをひとつのソフトウェアでサポートします。

SASシステムの関連書籍

日本語によるSASシステムのための統計解析関連書籍は
現在、次々と刊行されています。以下はその一部です。

『SASによるデータ解析入門［第2版］』 東大出版会
竹内啓監修 市川伸一、大橋靖雄、岸本淳司、浜田知久馬 著
『SASによる共分散構造分析』東大出版会
竹内啓監修 豊田秀樹 著
『SASによる多変量データの解析』東大出版会
竹内啓監修 前川眞一 著
『SASによる実験データの解析』東大出版会
竹内啓監修 芳賀敏郎、大橋靖雄、高橋行雄 著
『SASによる回帰分析』東大出版会
竹内啓監修 芳賀敏郎、野澤昌弘、岸本淳司 著
『SASによるデータ解析の基礎』培風館
宮脇典彦、阪井和男 著
『文系でもいきなりわかる行列・ベクトル入門』同友館
柳野照彦 著
『ロジスティク回帰分析 -SASを利用した統計解析の実際-』 朝倉書店
野後俊郎 山岡和枝 高木晴良 著
『SASでらくらく統計学』有斐閣ブックス
野津一郎、高橋秀世 著
『生存時間解析 -SASによる生物統計-』東大出版会
大橋靖雄、浜田知久馬 著

SASシステムで実現する新しい統計手法

■SAS/STATソフトウェア

Nelderの一般化線形モデル、GEE
ノンパラメトリックな密度推定によるクラスター分析・判別分析
ALSCALとMLSCALの機能をほぼ実現した多次元尺度構成法
混合線形モデル
標本再抽出法による多重性調整p値
Coxの比例ハザードモデル
Andersen & Gillによる再発のモデル化
PLS（Partial Least Squares）
ALSによるノンメトリックな最適尺度変換

■SAS/ETSソフトウェア

ARCH、GARCH、EGARCHモデルの推定
Dicky & Fullerの単位根検定

■SAS/ORソフトウェア

包括的な非線形最適化（超高速2次計画、ユーザー定義尤度関数の最適化）

■SAS/QCソフトウェア

信頼性解析
打ち切りを含むワイブル解析

■SAS/IMLソフトウェア

非線形最適化、数値積分、微分方程式、
統計数理研究所のTIMSACのサブルーチン化、カルマンフィルター

■Enterprise Minerソフトウェア

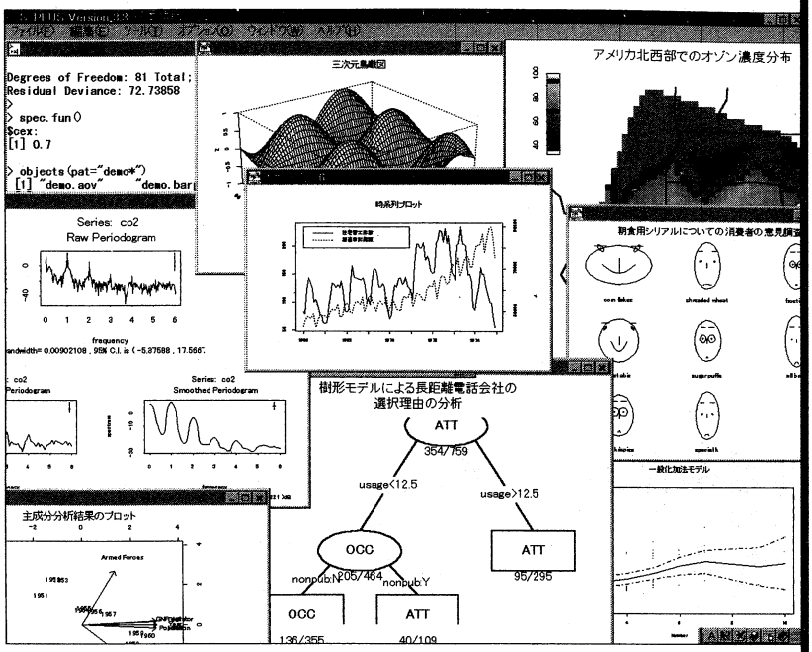
～データマイニングのすべての理論と手法をサポートする統合パッケージ～
モデリング手法（回帰分析、決定木（CHAID、C&RT、C4.5）、
ニューラルネットワーク）

株式会社SASインスティチュートジャパン
本　　社：〒104-0054・東京都中央区勝どき1-13-1 イヌイビル・カチドキ8F　TEL.03-3533-6921 FAX.03-3533-6927
大阪支店：〒530-0004・大阪市北区堂島浜1-4-16 アクア堂島西館12F　TEL.06-6345-5700 FAX.06-6345-5655
九州営業所：〒802-0001・北九州市小倉北区浅野2-14-1 小倉興産KMMビル3F　TEL.093-512-5014 FAX.093-512-5016

SASロゴ、The Power to Knowは米国SASインスティチュートの登録商標です。

MATHEMATICAL SYSTEMS INC.

創造あふれる研究開発のための
オブジェクト指向データ解析システム



S-PLUS

全国の著名企業・研究機関・大学での豊富な実績を誇ります

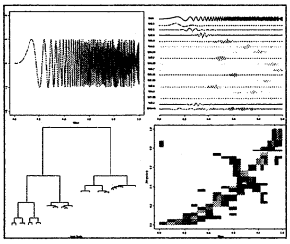
S-PLUSは高度なデータ解析機能と豊富なグラフィックス機能の両方を備えた本格的なデータ解析システムです。
対話型の素早い明快な処理で利用者の創造性を大幅に支援し、オブジェクト指向に基づく卓越したデータハンドリング能力により、データの可視化・再加工・再解析というフィードバックループを納得いくまで何度も繰り返すことができます。

主な特長

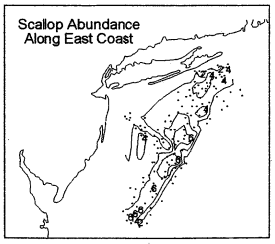
- ●一千以上の高度で最新の解析機能
  (基本演算、行列演算、探索的データ解析、線形代数、時系列解析、多変量解析、各種回帰分析、分散分析、線形モデル、検定、シミュレーション、OR　その他)
- ●数十種類のカスタマイズ自在なグラフィックス機能。
- ●オブジェクト指向のS言語による本格的なプログラミング機能により、個別の解析システムを簡単に構築できます。GUI構築ツールを備え、DDEやOCBCにも対応します。
- ●常設のトレーニングコースその他の強力なサポートでソリューションを側面支援します。数理科学を専門とするスタッフが、個別のコンサルティングにもお応えします。

特定分野ソリューションのためのアドオンモジュール

- ●S+WAVELETS　話題のウェーブレット解析のための500以上の機能
- ●S+DOX　実験計画法のための数多くの関数とグラフィックス
- ●S+SpatialStats　環境・資源工学などで話題の本格的空間統計モジュール
- ●S+GARCH　金融工学などで話題のGARCHモデルのために
- ●S+AVS　高性能3次元CGツールとAVSとのリンクモジュール
- ●S+GISlink　地理情報システムARC/INFOデータを本格的に解析可能



S+WAVELETS



S+SPATIALSTATS

対応機種、OS	主要UNIX *SunSPARC、HP9000、IBM(AIX)、DECalpha (UNIX)、SGI、NEWS*	Windows *DOS/V、PC98(Windows95、NT)*

※S-PLUSはMathSoft,Inc.が開発しライセンスしています。
※AVSはAdvanced Visual Systems Inc.が開発しライセンスしています。
※会社名および商品名は各社の商標または登録商標です。
(詳しい製品情報はS-PLUSホームページhttp://www.msi.co.jp/splus/をご覧ください。)

S-PLUS無料紹介セミナー定期実施中
当社新宿セミナールームにて、一人一台のパソコンを用いてS-PLUSをご説明さしあげています。お気軽にお申し込み下さい。

S-PLUSおよびAVSのお問い合わせ先

株式会社 数理システム S-PLUSグループ
〒160-0022 東京都新宿区新宿2-4-3 フォーシズンビル10F
TEL.03-3358-6681(直通) FAX.03-3358-1727
e-mail:splus-info@msi.co.jp(URL)http://www.msi.co.jp/splus/
お問い合わせ:平日10:00～17:00(FAX、e-mailは24時間随時)